

低迷する二輪車業界に、組合活動で活路を見出す！

当組合は、平成23年に県内の二輪車販売業者20社で設立しました。現在、二輪車市場の活性化や組合員の経営効率化のために、二輪車用品の共同購買、教育研修、情報提供などに取り組んでいます。

近年の二輪車販売台数は、80年代初頭をピークに、少子化高齢化や若年層の二輪車離れなどにより右肩下がりの状況が続いています。単なる移動・運搬手段と考えた場合、バイクよりは自動車の方が濡れずに快適に一度に多くのヒトやモノが運べます。二輪車には通学や買い物に使われる実用的なミニバイクがある一方で、大型バイクのように非常に趣味性の高いものもあり、「二輪文化」ともいえるべき市場が形成されています。市場が縮小傾向にある中で、ここ数年の明るい兆しとして、若い頃に二輪車に乗っていた中高年が再び二輪車に乗り始める「リターンライダー」や若い女性ライダーが増加し、専門の雑誌も出版されるなど、これまでにはない動きが見受けられます。消費者ニーズが多様化する中で、消費者と接する販売店の事業を支援する

ために組合が担う役割は大きいと考えています。

市場活性化のためには、二輪車離れの主因である‘バイクは危険’というイメージを払拭しバイク人口を増加させることが不可欠です。今年は運輸支局と連携し、ツーリングでの利用が多い道の駅周辺や県内イベントでの交通安全の啓蒙活動に取り組んでいます。こうした草の根の活動が、二輪車事故の減少に繋がることを信じて、これからも継続して取り組んでいきたいと思えます。

今年の9月からは二輪車に新たな排出ガス規制が適用になり、各メーカーが開発コストを販売価格に転嫁すると、一層の消費者離れを加速しかねません。二輪車業界を取り巻く環境は今後も予断を許しません。その時々課題に対して組合員同士が話し合い、連携を取って力をあわせていくことが「組合の理想の姿」だと思います。

